

10代目線の「広報田辺」

高校生特派員に6人

田辺市は18日、市内の高校生6人を、市の広報紙「広報田辺」に記事を書く「まちかど特派員」に委嘱した。10代の感性で、市の魅力を情報発信してもらおうのが狙い。昨年度に続いて2期目。

広報田辺は毎月1回、28ページを3万5千部発行している。

「特派員」は「青春キラリ！高校生レポーター」のコーナーを、毎月1校ずつ順番に担当。企画から取材、写真撮影、4000字程度の原稿作成までする。

委嘱を受けたのは山本桃花さん(田辺工業3年)▽由谷胡桃さん(南紀2年)▽中平まひろさん(同)▽千葉果歩さん(南部龍神3年)▽浦ひ

かりさん(田辺2年)▽宮崎美奈さん(神島2年)。千葉さんは「私の住む龍神村は田舎だけれど、いろんな良さがあることをPRしたい」、宮崎さんは「写真部の撮影で触れ合う田辺の人々はとても温かい。その良さを伝えられる記事を書きたい」と意気込みを語った。

この日、市長室で委嘱式があり、真砂充敏市長は「広報紙はなかなか読んでもらえない。高校生の視点で、市政を

より身近に感じてもらえる記事をお願いしたい。そのためにも活動を通じ、田辺の良さを知ってもらいたい」とエールを送った。先行して5月号(4月末配布)に掲載するため、商店街のイベントを取材した山本さんは「取材の最初はどんな質問をしたらいいのか分からず戸惑ったけど、いろんな人に会って楽しくなってきた。次は伝統工芸品を取り上げた」と話した。



真砂充敏市長から広報田辺まちかど特派員の委嘱状を受け取る高校生(18日、田辺市長室で)